

奈良女子大学
地域貢献事業実施報告書

「知る・学ぶ・伝えるequality事業」

平成 30 年度

平成 30 年度地域貢献事業報告
知る・学ぶ・伝える equality 事業

1. 目的（概要）

男女共同参画の根幹であるequality（平等）の実現を目指し、「多様な個性の尊重」についての様々な話題を連続講座の中で提供する。初めて知ったこと（知る）、関連する問題や背景などについて学んだこと（学ぶ）、一人ひとりが大切にされる社会を作るために毎日の生活の中で自分ができること（伝える）を参加者に持ち帰って頂くことを目的とする。

2. 実施担当者・連携組織等

(1) 奈良女子大学

主催： 男女共同参画推進機構、社会連携センター

(2) 連携組織等

後援： 奈良県（福祉医療部）、奈良市（福祉部）

3. 活動内容

本学は、基本理念の第一に「男女共同参画社会をリードする人材の育成—女性の能力発現をはかり情報発信する大学へ—」と定め、平成 17 年に奈良女子大学男女共同参画推進室を設置した。（*平成 24 年 12 月に男女共同参画推進機構に改編。）そして基本理念と男女共同参画社会の実現に向け、国が定める基本計画等に基づき、教育・研究・運営等のあらゆる場面で環境整備を進めてきた。第 2 期中期目標・中期計画（平成 22 年 4 月～平成 28 年 3 月）には、学内外における男女共同参画の推進が定められ、この目標・計画達成に向けた取り組みの一環として、平成 22 年度に本事業を開始した。

この事業は、男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」と「人間の平等(equality)」を身近な問題として捉え学ぶことを目的として、男女共同参画を含む人権に関する様々な話題を講座等を通して提供するものである。平成 22 年度は、ビデオ教材を用いて、日本国憲法に「男女平等」が書かれた経緯を知ることから始め、家庭における性別役割分業やアジア、ヨーロッパ、アメリカの女性を取り巻く環境について学んだ。平成 23 年度は、「幸せに生きるためのヒント」と題した 5 講座を開催。平成 24 年度は、「自分を好きになること」（自尊感情の育成）をテーマとした 4 回の講座を実施。平成 25 年度は「心を元気にすること」をテーマに、①寂しさ・悲しみ、②不安・恐れ、③怒りの感情の受け止め方・対処の仕方に関する 3 回連続講座を開催。平成 26 年度は、「あるがままの自分を生きる」ことについての 2 講座を開講。平成 27 年度は社会連携センター単独主催で「五感と対話」をテーマとした 2 回の講座を実施した。平成 28 年度及び平成 29 年度は「性的マイノリティ

一」をテーマとして年2回の講座を開講した。

今年度（平成30年度）は「発達障害」をテーマに2回の講座を開催した。

広報活動として、連続講座のチラシを作成し、奈良県内の公民館、高等学校、奈良市内の小・中学校、関西圏内の大学及び自治体の男女共同参画推進部門に郵送した。また近鉄奈良駅、JR奈良駅の観光協会にチラシ配置を依頼した。更に、本学HPイベント情報へ掲載した。

テーマとして発達障害を取り扱ったため、支援団体関係者や学校関係者等多数参加していただいた。今後の広報活動としては、テーマに沿った機関へのチラシ発送などを加えることより一層参加者の満足を得るものになるのではないかと考えられる。

講演開催時の無料託児も行った。今後も多くの方に参加機会を提供するため今後も受け皿を用意することを続けることがのぞましい。

以下平成30年度開催の各講座の内容を報告する。

第1回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝える equality” 連続講座 第1回

「発達障害を笑 GUY（しょうがい）に」

【日時】 2018年11月16日 15:30～17:00

【場所】 奈良女子大学コラボレーションセンター Z306

【講師名】 東田愛子氏（アスパラガスの会・はたらっく）

【参加人数】 57名

【講座概要】

発達障害とは、自閉症スペクトラム障害や注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害などの総称で、脳の発達の遅れが日常生活に支障をきたす状態のことである。演者は発達障害を抱えており、幼いころから感覚過敏に悩み、人と何かが違うという違和感を持っていた。そのため、人間関係や自分自身に悩んだ時期が長く続いたが、介護の仕事に就き、さらに同じ悩みを持つ仲間との関わりを通して、人と違う自分をネガティブにではなくポジティブに捉え直すことに成功した。

できること・できないことを自身で把握し、必要ならば人の助けを受けながらも、失敗を恐れず、成功体験を積み重ねてゆくことで、自己肯定感が育つ。発達障害を障害としてではなく、「笑” GUY”としてポジティブに捉える。発達障害と

平成30年度 知る・学ぶ・伝えるequality 連続講座第1回
発達障害を笑GUY(しょうがい)に

「発達障害」についてご存知ですか？ コミュニケーションが苦手、集中できない、じっとしていられないとか、いろいろいわれています。でも、「変わった人」とか、「困った人」というように誤解されている場合もあるのでは？ 発達障害に対する正しい理解が必要です。今回は、当事者である東田愛子氏に自らのご経験から発達障害について語っていただきます。

講師：東田 愛子氏
(アスパラガスの会・はたらっく)

介護職、自閉症、ADHDの診断を受けている。中学生の子育て中。発達障害当事者会「アスパラガスの会」「はたらっく」のスタッフとして活動。パルパラ(NHK Eテレ)出演経験有。

日時：2018年11月16日(金)15:30から17:00
場所：奈良女子大学コラボレーションセンター Z306教室 どなたでも自由にご参加いただけます。

託児は生後2か月～小学校5年生のお子様対象です。
申込締め切り：11月6日(月) 定員に達したら締め切りです。
① 養育費等の必要な費用を事前に電話でお知らせください。
② お子様の年齢をお知らせください。

託児申込・お問い合わせ先：社会連携センター
E-mail: kouza@nmu.nara-u.ac.jp
TEL: 0742-29-3734(平日10:00～17:00)
FAX: 0742-29-3258

開催当日、奈良県北部(北西郡、北東郡、五條・北御所郡)に特別参加費、県民割が適用された場合は、午費1時を過ぎても参加されなければ、講座は中止となります。

主催：奈良女子大学男女共同参画推進機構
社会連携センター
後援：奈良県、奈良市

国立大学法人 奈良女子大学

一括りにするのではなく、現れ方は人それぞれなので、その人をよく見て、何を必要としているのか考える。人が人を助けるという点では通常の間人間関係と何ら変わらないのである。演者の今までの平坦でない道のりから発達障害の方々の現状を窺い知ることができ、演者の前向きな姿勢は参加者に勇気を与えるものであった。講演の後、活発な質疑応答があり、「発達障害」を知る有意義な機会となった。



【アンケート調査】

回答人数 57人 回答率 63%

Q1 所属 教員 5.6% 大学院生 8.3% 学部生 5.6% 一般 80.6%

Q2 情報源 チラシ 22.5% ポスター 10.0% 本学 HP 5.0%

知人・友人からの紹介 30.0% 講師からの紹介 12.5%

その他 17.5% 未記入 2.5%

Q3 イベント参加回数

初めて 61.1% 2～3回 16.7% 4～5回 8.3% 6回以上 11.1%

未記入 2.8%

アンケートまとめ（自由記述より）

- ・知り合いに障害を持った子がいるので、周りの人間がどう接すれば良いかとても参考になりました。
- ・当事者による講演を聞く機会は少ないので、貴重な体験になった。発達障害が少し理解できたかもしれない。
- ・当事者の方のお話を直接聞かせていただいているいろいろな人がいらっしゃることがわかりました。自分の価値観を押しつけないようにしたいと思います。
- ・人と違うことがあるのは当たり前ですが、1人でも理解してくれる人がいたり寄り添ってくれる人がいれば笑っていられる社会になるのでは。
- ・発達障害に対する具体的イメージを持てたことが大きく自分にとって意味のある内容でした。
- ・発達障害の方のお話を聞く機会は2回目ですが今回初めて詳しくその様子を知りました。大変な経験をされてきたのにもかかわらずステキな笑顔でお話されるので、生きる力、パワー、精神を授かったように思います。いいお話をありがとうございました。「みんな違ってみんないい」なのですね。
- ・当事者を講師として体験をお聞きすることのできる貴重な機会となりました。障害の問題は、ともすれば辛さや暗さを伴う内容となり、共有しにくい部分も出てくるテーマです

が、今回のように、当事者の目線から理解を深められるような講座を今後とも開催していただければと思います。

第2回

【講座名】 “知る・学ぶ・伝える equality” 連続講座 第2回

「発達障害は、障害？ 個性？」

～個性として捉えるために周りができること～

【日時】 2019年1月31日 15:30～17:00

【場所】 奈良女子大学総合研究棟S棟S228教室

【講師名】 金山好美氏（一般社団法人奈良子ども研究所 Active）

【参加人数】 39名

【講座概要】

大人は誰でも我が子に「優しく育て欲しい」、「自分のことは自分でして欲しい」などと願う。ところが、発達障害を抱える子供は、往々にして暴力や無気力など、その逆の行動をするように見える。しかし、なぜそのような問題行動を起こすのだろうか？例えば、何か新しいことを始めるときに暴言を吐く子がいる。大人は、「そんなに嫌なら止めなさい！」と言ってしまいがちである。ところが、暴言を吐くなどの問題行動も学習の結果である。その行動を起こす文脈やその子にとってのメリットを正しく理解できれば、やりたいことができない環境から、やりたいことを応援する環境へと変えることができる。つまり、失敗しそうな点を予め述べたり、お手本を示したりして、子供の生活がより豊かになるよう支援することが可能になる（ソーシャルスキルトレーニング）。我々は、つい、どういう大人になって欲しいかという基準でのみ子供を評価しがちであるが、評価基準を変えたり、本人の「今」を認めることで、子供がより伸びることがある。奈良子ども研究所 Active における取組みから発達障害の方々への対応について学ぶことができた。講演の後にも演者を囲んで質疑応答や意見交換が行われ、参加者の関心の高さが窺えた。

【アンケート調査】

回答人数 31人 回答率 79%

Q1 所属 教員 12.9% 職員 6.5% 大学院生 3.2% 学部生 12.9% 一般 64.5%



- Q2 情報源 チラシ 28.9% ポスター15.8% 奈良女子大学のHP 10.5%
社会連携センターのHP 5.3% 知人・友人からの紹介 18.4%
講師からの紹介 13.2% その他 7.9%
- Q3 イベント参加回数
初めて 41.9% 2～3回 19.4% 4～5回 19.4% 6回以上 19.4%

アンケートまとめ（自由記述より）

- ・初めて訪ねて、子供用と言われましたが大人である人も参加し学んで良かったです。発達障害として今のところで12年働いていますが、2/7に話し合いがあり発達障害かクビか（今のところで）悩み、何の為の就活と、今人手不足の中、障害のある人が悩み誰に相談したらいいかと悩んでいる人がいる！社会的不利と言われているが、フォローが欲しく時間がかかるが理解が必要と思う。
- ・1つ1つの問題行動に対して、何がきっかけなのか、何を意図しての行動なのかを考えていく大切さを学ぶことができました。大人はその先に起こることを予測するため、順序を追わずに対処したり抽象的に注意してしまいがちですが、そうではなく、それを対処する学ぶ機会と捉えるという発想を頂けました。
- ・障害の特性から日々の細かな関わりについて、具体事例を上げての話が分かりやすかったです。具体事例にエビデンスを加えてお話いただけたことが理解のしやすさになったかと思います。
- ・私も「障害を個性と捉えたい」「他の子どもたちにもそう捉えてほしい」と思い、参加しました。今を認めることはこの瞬間からできる簡単なことなので、実践したいと思います。良い行動・できている行動を見るようにして、褒めることを大切にしていきたいと思いました。
- ・必ずしも発達に問題のある人に限った問題ではなく、それぞれの人間関係に役立つ、もしくは普段から自身の子育ての中で知らず知らずに実践している内容等もあり、ある意味安心しました。少し気になった部分は、「どこまで介入するか」「介入の度合い」が高く感じる点でした。

4. 成果と見通し

今年度は「発達障害」をテーマとして、2回の連続講座を開催した。「発達障害」という言葉については、マスコミやインターネットでも広く知られるようになってきたものの、充分には理解されていないのが現状である。連続講座の第1回目は発達障害の当事者から、どのように見えるのか、どのように聞こえるのかに始まり、発達障害を抱える方々の様々な現状について語っていただいた。第2回目は発達障害の子ども達への教育のご経験から、発達障害を抱える人々に対して周囲はどのように対応すればよいのかについて話された。

どちらの演者からも、発達障害の様々な特徴は時に誤解を生じがちではあるが、それを「個性」とポジティブに捉えることが重要であることが伝わった。発達障害についての正しい理解がなければ、発達障害を抱える方々とのよりよいコミュニケーションは望めない。当事者からの正直な現状を知ること、またそれを「個性」ととらえて周囲ができることについて学ぶことができた有意義な講座となった。参加者はいずれの講座も半数以上が学外からの一般の参加者であり、活発な質疑応答や意見交換が行われ、「発達障害」に対する一般の関心の深さが窺われた。アンケートからも参加者が「発達障害」に対する認識を新たにすることが読み取れる。今回の連続講座で学んだことから、参加者の「発達障害」に対する認識が新たになり、徐々に周囲に伝わっていくことを期待したい。今後も「多様な個性の尊重」の実現のために、公開講座を通じてさまざまなメッセージを発信していきたいと考えている。